

鐘の音

さいたま市男女共同参画推進センター
パートナーシップさいたま
広報誌vol.14

kane-no-ne

2008.3

特集 学び・気づき・実践へ 2,3

平成20年度講座予定／市民企画講座を募集します！／男だって悩みをかかえている

- パートナーシップさいたまのオススメ図書 4
- ただいま活動中 保育サポート「ママの手」
- 女性の悩み相談「相談室から」 5
- Book Navi 図書のご案内
- 施設・相談のご案内 6

コ・ラ・ム・数字

9.4

この数字は、日本の衆議院における女性議員の占める割合です。右の表でもわかるように主要8カ国の中でも一番低く、その割合はかなり低いことがわかります。

参議院では、平成19年7月に半数改選で行われた選挙で「18.2%」と過去最高の女性議員比率となりましたが、それでもまだまだ低いと言わざるを得ません。

さいたま市では女性議員の占める割合は「21.9%」と衆・参両議院よりは高く、全国都道府県・市町村の平均と比べて比較的高い水準ですが、政策決定の場にもっと女性割合を増やしていくことが求められます。

主要8カ国の国会における女性議員数・割合

国名	下院			上院		
	議員数	女性議員	女性割合(%)	議員数	女性議員	女性割合(%)
ドイツ	613	194	31.6	69	15	21.7
カナダ	305	65	21.3	93	32	34.4
英国	646	126	19.5	750	148	19.7
フランス	577	105	18.2	330	60	18.2
イタリア	630	109	17.3	322	45	14.0
米国	435	73	16.8	100	16	16.0
ロシア	450	63	14.0	169	8	4.7
日本	480	45	9.4	242	44	18.2

※IPUホームページ「Women in parliaments」(2007.12.31)から抜粋

学び・気づき・実践へ

～平成20年度

パートナーシップさいたまの講座・講演予定～

多様化する社会の中で、よりよく生きていくためには何が大切なのでしょうか。
パートナーシップさいたまの講座・講演会でいっしょに考えてみませんか？

講座名	内 容	実施時期・回数	会 場	対 象
男女共同参画 実践講座	男女共同参画に関する最新の知識と講座づくりのノウハウを基本から学び、実践に生かすことを目的に実施します。	5月～7月 土曜日 午後 3回	パートナーシップ さいたま	市内在住・在勤・在学の 男女24人
男女共同参画週 間記念講演会	自分の生き方・暮らし方を見つめ、自分らしさとは何かを考える機会とします。 香山リカさんを講師に予定。	6月14日(土) 14:00～16:00	生涯学習総合 センター	一般150人
女と男の トレンド社会学	その時々ホットでタイムリーな話題や歴史上の人物をテーマに、ゲストと参加者の意見交換を楽しみます。	6月～7月 1回 9月～10月 1回 11月～12月 1回 2月～3月 1回	パートナーシップ さいたま ひとひと 女・男プラザ	一般24人
再就職準備講座	そろそろ再就職したいという方を対象に、その準備のための基礎知識を学びます。	7月または11月 木曜日 午前 3回	パートナーシップ さいたま	市内在住・在勤・在学の 男女24人
幼児をもつ母親 のための講座	日々の暮らしの中で子どもに向き合いながらもふと感じる「これでいいのかしら?」という思い… みんなで学び、語り合しましょう。	9月～10月 木曜日 午前 4回	ひとひと 女・男プラザ	市内在住・在勤・在学の 女性30人
女性カレッジ	女性問題や男女共同参画について系統的に学び、理解を深め、問題解決の道を探ります。	9月～11月 火曜日 午前 8回	パートナーシップ さいたま	市内在住・在勤・在学の 女性24人
市民企画講座	様々な分野で活動している団体に、自主的に講座の企画・運営を経験する機会を提供します。	9月から1月	パートナーシップ さいたま	市内を主たる活動地域とし、政治・宗教・営利を目的に活動していない団体
グループ活動を 上手に運営する には	グループを作ったはいいけれど続かない… そんな経験ありませんか？上手な運営のコツを学びます。	10月 土曜日 午後 1回	パートナーシップ さいたま	市内在住・在勤・在学の 男女24人
女性に対する 暴力を考える 講演会	隠された犯罪といわれるドメスティック・バイオレンスを根絶する道を探ります。	11月～12月 土曜日 午後 1回	未定	一般 未定
男性カレッジ	男性自身も気づかない「男らしさの呪縛」をとく、イイ男への登竜門をめざす講座です。	1月～2月 土曜日 午後 4回	パートナーシップ さいたま	市内在住・在勤・在学の 男性20人
離婚の基礎知識	「後悔しない選択」のため、正しい知識を基に熟慮しましょう。	1月～2月 火曜日 午前 4回	未定	市内在住・在勤・在学の 男女40人

※内容等は変更になる場合があります。詳細につきましては、市報さいたま、ホームページ等でお知らせします。

男女共同参画推進 市民企画講座を 募集します！

パートナーシップさいたまでは、様々な分野で活動している団体から、多様な能力と経験を生かした男女共同参画推進をする事業の企画を募集し、開催する機会を提供します。10万円を上限に経費の一部を補助します。

パートナーシップさいたま、市役所7階男女共生推進課、女・男プラザに配布してある申請書に記入し、直接または郵送で、4月4日(金)～5月7日(水)(必着)の期間にパートナーシップさいたまへ提出してください。多数の応募をお待ちしております。

なお、応募条件等については、パートナーシップさいたまホームページをご覧ください。

▶ パートナーシップさいたまホームページアドレス

【<http://www.city.saitama.jp/www/contents/1163141586258/index.html>】

トライしました 「女性たちの頑張りすぎない講座」

グループStep.1 代表 田代敏子さん

自分たちの活動を形にしたいと、市民企画講座に応募しましたが、企画書、プレゼンテーション共に自信はありませんでした。

審査に通ってからが大変でした。講師依頼をはじめ、少しでも多くの受講者が集まるような講座名を考えたり、チラシの作成・配布などギリギリまで試行錯誤の連続でした。その甲斐あって、申し込み初日に定員オーバーとなりホッとしました。皆の力で講座も無事終了。運営にあたり実践講座の学びが役立ちました。これを機に次のステップを目指したいと思います。



▲「女性たちの頑張りすぎない講座」から

「男だって悩みをかかえている」



中村 彰さん

男性学・ジェンダー論などを専門としてジャーナリスト、花園大・相愛大・大阪市立大などの非常勤講師、メンズセンター運営委員、日本DV防止・情報センター運営委員など多岐にわたり活躍中。『男性の「生き方」再考－メンズリブからの提唱』(世界思想社 2005)など著書多数。

以前、「男の語り場」という集まりの司会をしたとき、男性は自分では本音を言っているつもりでも、まだ本音を言っていないことに気づきました。男性だって悩みを抱え込んでいる、そんな男性をほったらかしておいていいのだろうか、そのような思いが、1991年にメンズリブ研究会を発足させるきっかけとなりました。

男だからといって「男らしく」「男だから」というのは、本人にとってはかなり「しんどい」ことで、「男だから」という枠組みをはずすだけでも楽になると思います。泣いている男の子を見ると大人は「男の子だから泣くんじゃない」と、特にしかるつもりではないが言ってしまう、それが頭の中に残っています。そのような「しんどい」と思っている男性を救うた

め1995年に大阪で男性相談「男悩みのホットライン」を開設しました。ジェンダーの問題に理解のある臨床心理士の方に研修を依頼し、カウンセリングに関する研修や男性問題に関する研修を受けた男性が相談員になっています。

開設当時はまだ携帯電話はそんなに普及しておらず、仕事帰りに公衆電話からかけてくる男性が多かったようです。ヒントだけでも済んでしまう場合もありますし、話すだけでも楽になるものです。なかには具体的アドバイスを求める人がいますが、いくつか選択肢を提示し、自分で気づいて行動に繋げてもらうようにしています。中学生からの相談も、イジメに関するものが多く寄せられていますが、なかなか心を開かないことが多いです。また、妻に先立たれた寂しさから電話をかけてくる人や、性の悩みで電話をかけてくる人もいます。

DVに関する相談も多く、男性被害者からの相談ばかりでなく、加害者からの相談もあります。DV加害者の相談ができる相談員の確保は難しいです。

女性が男性相談を受けることについては、相談する男性にもよりますが、語りやすいのが男性か女性かは相談者本人の気持ちによりますので、必ずしも相談員は男性でやるものという限定はしないほうがよいと思います。

さいたま市男女共同参画推進センター主催講座
「男性カレッジ2007 男が語る、男が聴く、男の電話相談」から

パートナーシップさいたまの オススメ図書

パートナーシップさいたまでは、男女共同参画に関する図書をそろえています。
 新刊はもちろん、時代を超えて一度はぜひ読んでおきたい名作もあります。
 閲覧スペースで、ゆっくり吟味して、その場で読んでいくこともできます。

※ 女性論

『新しい女性の創造』

ベティ・フリーダン 著
 /三浦富美子 訳

(大和書房 2004刊)【367.1】

『市川房枝自伝』 市川房枝 著

(新宿書房 1995刊)【289】

※ 男性論

『<男らしさ>のゆくえ』

伊藤公雄 著

(新曜社 1997刊)【367.5】

『壊れる男たち』 金子雅臣 著

(岩波書店 2006刊)【367.5】

※ DV(ドメスティック・バイオレンス)

『DVにさらされる子どもたち』

ランディ・バンクロフト
 /ジェイ・G・シルバerman 共著

/幾島幸子 訳

(金剛出版 2004刊)【368】

『デートDVってなに? Q&A』

日本DV防止・情報センター 編著

(解放出版社 2008刊)【368】

※ その他

『「心の専門家」はいらない』 小沢牧子 著

(洋泉社 2002刊)【146】

『アリーテ姫の冒険』 ダイアナ・コールス 著

/ロス・アスキス 絵
 /グループウイメンズ・プレイス 訳

(学陽書房 1994刊)【933】

『きっと変えられる性差別語』

上野千鶴子 + メディアの中の性差別を考える会 編
 (三省堂 1996刊)【814】

※ 家族の問題

『21世紀家族へ』

落合恵美子 著

(有斐閣 2000刊)【367.3】

『子どもからの自立』

伊藤雅子 著

(岩波書店 2001刊)【367.3】

『育児のジェンダー・ポリティクス』 船橋恵子 著

(勤草書房 2006刊)【367】

※【末尾の番号】は図書コーナーの分類番号です。

ライブラリーニュース「陽だまり」発行

「さいたま市女性カレッジ」修了者12名からなるカレッジパートナー。学んだ知識を活かし、パートナーシップさいたまの情報・資料コーナーで図書・資料の紹介・整理、掲示ポスターの作成などの活動をしています。

今年度は「パートナーシップライブラリーニュース」を発行することに挑戦し、タイトルはみんなで考えて「陽だまり」と決定しました。今年度は第3号まで発行します。紹介している本はどれも読んで欲しいものばかりです。「陽だまり」をぜひ手にとってみてください。

「陽だまり」はパートナーシップさいたままで配布するほか、市内公共施設で閲覧できます。



▲「陽だまり」第1号ができました

子どもたちを
 迎えにくるお母
 さんたちのイキ
 イキとした顔を
 見ることが、会員
 たちの活動の原
 動力になってい
 ます。
 保育サポート
 「ママの手」代表
 (林 茂登子)



▲ 仲よくお迎え待ってます

会員は修了生と保育士・幼稚園教諭などの免許取得者、子育て経験者で構成しています。
 「本当のママの手ではないけれど、変わらぬやさしい手で子どもたちを包んであげたい。手と手をつなぐことで何かを生み出したい」という思いを会の名前に込めています。
 「ママの手」の保育サービスは、利用者宅でお子さんをお預かりする「サポート保育」と公民館等で開催される託児付き講座の保育をする「グループ保育」とがあります。

ただいま活動中
**保育サポート
 「ママの手」**
 パートナーシップさいたまで活動中の
 男女共同参画グループを紹介します

保育サポート「ママの手」は、旧与野市の女性総合センター主催の「保育サービス養成講座」の修了生が立ち上げた、今春で発足9年目の有償ボランティアグループです。現在35人の会員が中央区を拠点に活動しています。

相談室から

パートナーシップさいたまでは相談事業として「女性の悩み電話相談」、「法律相談」、「心の健康相談」を行っています。

今回は「女性の悩み電話相談」を担当している二人の婦人相談員からのメッセージです。

あなたと一緒に考えます

時折「悩みと言えるかどうかわかりませんが、どんな相談でもよいですか?」といった電話をいただくことがあります。もちろん、OKです。たとえ些細なことでもあなたが生きづらさを感じたことには違いないのですから。

その生きづらさを抱えたまま我慢し、無理して頑張りすぎれば、やがては心身の健康にも支障をきたすかもしれません。

電話相談には、家族、親戚、隣近所、職場、友人などの人間関係にまつわる悩み、心の悩み、老後の生き方、ドメスティック・バイオレンスなど多岐にわたって寄せられています。

昨今、世の中のしくみや環境が複雑にからみ合って、人と対話したり、心を開いてふれあう機会が少なくなっているように思います。そんなとき大事なものは、悩みを胸にた

め込まず言葉にして誰かに聞いてもらうことではないでしょうか。

話しているうちに悩みの本質が見えてくる場合もあり、話すことで気分的にも和らぎます。女性の悩み相談へ、どうぞ電話してください。相談員は悩みを解決する糸口をあなたと一緒に考えます。
(婦人相談員A)

人は一人では生きられない

— 生き方をめぐって思うこと

私には清々しい春風の吹く季節が巡ってくると思い出すできごとがあります。それは体調に異変を感じて受診、担当医師から「がん告知」の診断結果を聞いた日のことです。その日を境に、自分の健康(いのち)と否応なく向き合うこととなったのです。私の身体は以前と変わったところはないのに心が変なのです。めまいでもないし、頭痛とも違うし、心がふわふわと宙を漂っているような得体の知れない不安が、さざなみのように押し寄せてきました。

入院、手術治療、自宅療養と3ヶ月過ぎました。「元の元気な身体に戻れるだろうか、仕事が続けられるだろうか」と心細さと不安を抱えながらリハビリに励んでいる時、職場の仲間の方から「職場で会いましょう」と手紙や絵ハガキが届き、励まされました。その言葉は私の心身を支えつづけました。人は一人では生きられないということを身にしみて感じたものです。

あれから2年目の春風が吹く季節が来ようとしています。今、私は「パートナーシップさいたま」の婦人相談員として皆様からの相談電話を待っています。
(婦人相談員B)

Book Navi

情報・資料コーナーで貸し出している図書のご案内です。

『おひとりさまの老後』

上野千鶴子著 2007年 <法研>

最近、話題の書。高齢化社会、結婚しない女性の増加、年金問題等、老後の不安は増すばかりの今日この頃。しかし、その不安が何なのか、ひとつひとつ原因をとりぞいでいくと解決できることがらもある。

おひとりさまの老後に必要な住まい、お金、介護の選び方・受け方、「終わり」方、コミュニケーションについて現代事情をふまえ、鋭く、やさしく説いている。

「泣き言を聞いてくれ、困った時に助けてくれる人を調達し、かつメンテナンスしておくこと」というくだりには、なるほどどうなずいてしまう。心身共に弱くなりかけた時にがんばらないでもいい相手がいることは救いだ。これは老後だけにあてはまることではない。

老後の近い人、遠い人にかかわらず、人生の参考書でもある。

(井澤 美恵子)

『「男だてら」に「女泣き」ジェンダーと男女共同参画社会入門』

奥山和弘著 2003年 <文芸社>

「男だてら」に「女泣き」の本を手にとった時、題名に違和感があった。なぜなら、聞きなれない言葉だったからだ。普通なら「女だてら」に「男泣き」と使うだろう。しかし、読み進めていくうちに、これが著者の言うところの「枠組み」にとらわれた考え方だと気がついた。知らず知らずのうちに自分の中に枠組みが作られ、「〇〇はこうあるべきだ」という枠組みが根底にあり、何事もとらえているような気がしてならない。

男女共同参画社会を学び、実践していくにあたり、誰もが疑問に思うことを身の回りの具体例をあげて説明している。とてもわかりやすい本。ジェンダーとは何?男女共同参画社会とは何?と、男女共同参画社会に一步踏み出した人が読むのに、読みやすいオススメの本である。

枠組みを取り払い、枠組みにとらわれない生き方をしていきたいものである。

(数田 由美子)

施設のご案内

	パートナーシップ さいたま	ひとひと 女・男プラザ
場所	大宮区桜木町1-10-18 シーノ大宮センター プラザ3階	緑区中尾1440-8 プラザイースト3階 <small>※浦和駅西口よりバス、「緑区役所入口」下車 又は東浦和駅よりバス、「プラザイースト南」下車</small>
開館 時間	平日 9:00~21:00 土・日・祝日 9:00~17:00	9:00~17:00
休館 日	第4日曜日、年末年始	月曜日、年末年始
施設の利用	男女共同参画の推進を目的とする活動に、ご利用ください。 (パートナーシップさいたまの会議室・プレイルームと 女・男プラザの団体活動室は、利用登録が必要です。)	
情報・資料コーナー、交流コーナー	本や雑誌、行政資料、ビデオなどがあります。 閲覧、貸出しができます。ちょっとした話し合いに利用 できる交流コーナーもあります。	
お問い 合わせ	048-642-8107	048-875-9966

相談のご案内

● 女性の悩み電話相談

女性の生き方、夫婦、親子の問題、職場や近隣の人間関係などの相談に応じます。

パートナーシップさいたま	☎ 048-643-5813
月～金/10:00～20:00 土・日・祝/10:00～16:00	
ひとひと 女・男プラザ	☎ 048-875-9653
金/10:00～17:00	
浦和区役所 女性の相談室	☎ 048-829-6129
月・火・水・金/10:00～17:00	
中央区役所 女性の相談室	☎ 048-840-6132
月・水/10:00～17:00	
岩槻区役所 女性の相談室	☎ 048-790-0158
月・水/10:00～17:00	

● 法律相談(予約制) 女性の弁護士が相談に応じます。

パートナーシップさいたま	☎ 048-642-8107
第2・第4水曜日/13:00～15:30	
ひとひと 女・男プラザ	☎ 048-875-9966
第1・第3火曜日/13:00～15:30	

● 心の健康相談(予約制)

専門の女性の医師が相談に応じます。

パートナーシップさいたま	☎ 048-642-8107
第3月曜日/13:30～16:30	

◆相談は無料です。◆秘密は厳守します。

編集後記

早いものでもう鐘の音の編集員も終わりになる。編集員を始めた頃は3人だった家族も4人になり環境もかなり変わった。私自身も変わった。鐘の音の編集に携わった事で家庭や狭い日常生活から抜け出すことができ、社会復帰への自信ができた。これに携わった人たちに感謝。ありがとうございました。

(浅見靖子)

専門主婦でいることに苦しさを感じ、「何かをしなくては」との思いからはじめた編集員でした。文がうまく書けず、困ったこともありましたが、編集員会議であれこれ考えたことが形になっていくのは、ちょっとした感動でした。ありがとうございました。

(井澤美恵子)

鐘の音の編集員として2年間務めさせていただき、編集員会議のメンバーの方々という話し合いをする機会を持つことができたことに感謝したい。人口減少が始まった日本にとってその解決策のひとつが男女共同参画の推進と考えられる。さいたま市におけるその推進役のひとつとして今後も鐘の音が有効に機能してほしいものである。

(岡本精文)

男女共同参画と出会って2年半。鐘の音の編集に携わり、実践の難しさを実感。まだまだ勉強が足りません。自分の個性をどのように活かしていくか?家庭生活における活動と他の活動の両立にむけて、これからも努力していきたいと思っています。2年間ありがとうございました。

(数田由美子)

広報誌「鐘の音」のご感想、ご意見をお寄せください。郵便、FAX、E-mailでパートナーシップさいたままでお願いします。

《誌名「鐘の音」》
大宮の古い地名「鐘塚」に建てられた「パートナーシップさいたま」から、男女共同参画推進の鐘の音を響かせたい、その願いを込めて名づけました。

パートナーシップさいたま広報誌「鐘の音」vol.14 2008年3月25日発行
＜編集・発行＞

さいたま市男女共同参画推進センター パートナーシップさいたま
編集員/浅見靖子・井澤美恵子・岡本精文・数田由美子
〒330-0854さいたま市大宮区桜木町1-10-18シーノ大宮センタープラザ3階
電話 048-642-8107 FAX 048-643-5801
E-mail: danjo-kyodo-sankaku@city.saitama.lg.jp
7・11・3月発行(年3回)

